



大海 太郎
タワーズワトソン
取締役社長

経済同友会 つながる▶▶

リレートーク #242

「新聞をとる」ということ



松尾 時雄
日本カーバイド工業
取締役社長

経済新聞の購読をWeb版に切り替えて4年ぐらいたっただろうか。混雑した電車内で肩幅以内での活動を維持すべく新聞を細く畳みながら読む必要もなくなったし、海外出張していてもリアルタイムで日本の出来事をスマホで確認できるようになった。連載小説をまとめて読むために新聞を保存しておく必要もない。気になる記事も簡単にクリッピング機能で保存できるし、以前より随分便利になったと感じている。

一方家庭では一般紙をまだ購読しており、家内はこちらの昔ながらの紙媒体の新聞を愛している。ところがここ1年くらい、この一般紙の購読をやめ、経済紙同様Web版にするか、さらに踏み込み新聞自体やめてしまおうかということが家庭内で相談されるようになってきた。大手二紙の販売店による契約争奪勧誘が煩わしくなってきたというのがその理由だ。日本新聞協会によると、一般紙発行部数はこの10年で約17.5%減っているとのことだ。新聞販売店が購読者を確保するため躍起になる気持ちはよく分かる。「新聞をとる」という行為をこれまで長年続けてきたわれわれ世代は最も有望な見込み客である。そもそも若い世代は、最初からWebでの情報が中心なので「新聞をとる」という行為さえないのかもしれない。

わが家にとって「新聞をとる」という行為をやめてしまって何か不都合がないのか考えてみた。すぐに思いつくのは、新聞に挟み込まれている市の広報紙、タウン誌、チラシがなくなるということだ。新聞のWebサイトやその他のニュースサイト以外のところからの情報、特にコミュニティ情報のようなものは自ら別のところに取りにいかなければならなくなるということだ。また、靴の脱湿・消臭、揚げ物の油切り、窓拭き・土間掃除や鳥かごの中の敷物など古新聞がいろいろ重宝している。新聞購読を完全にやめるということは、これらの代替策も考えなければならないということでもある。

スマホの普及によりこれまで以上に便利を享受できるようになったが、われわれの世代にはイライラしそうな副作用もまだまだありそうだ。

▶▶ 次回リレートーク

奥村 洋治
フジタ
取締役社長